

現代用語

自由国民社版

時代の鼓動を反射する
新語・外来語の宇宙

1994

の

基礎知識

【別冊付録】

テレビ年表

力道山からタケシまで、テレビと世相の40年



【巻頭特集】

カラー折り込み地図 人口開発会議を読むグラフ
93年衆院選挙政党得票グラフ

カラー特集 タイジスト版・保守合同から93年新体制まで
「宇宙工場」時代の幕開け—毛利さんの実験から実用へ—



モノクロ特集 1ドル100円時代の日本経済を読み解く用語集
日本の戦後補償を考える用語集
人物ファイル94—新進政治家&各界キーパーソン

【巻末付録】 最新増補改訂1994年版
マスコミ 外来語略語年鑑
に出る



introduction



●START IIがモスクワで調印され米・口間に戦略核兵器削減についての青写真が出来上がったことは大いに歓迎すべきである。しかしながら、これは未だ絵に描いた餅に過ぎず前途は多難である。同時に核兵器の削減は、核物質の海洋投機による環境汚染の問題や、核兵器生産技術が第三世界へ拡散する問題を伴っている。

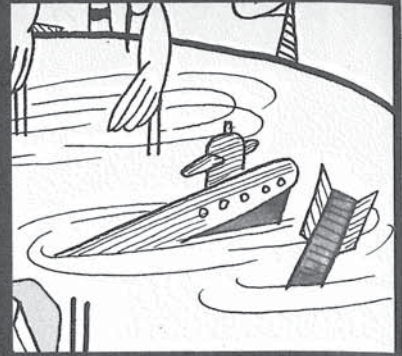
●通常戦力については量の面では確実に進捗している。しかしながら、これは旧式な兵器の廃棄によるもので、装備近代化の努力は依然として継続されている。一方、東アジアへの武器の流入量は世界の火薬庫と呼ばれた中東への流入量をはるかに越えるに至った。とくに大量破壊兵器やその生産技術が第三世界に拡散する危険は大きくなってきた。これを未然に防止するとともに、地域的な安全保障の新たな国際的枠組みを作ることが急がれている。

●地域紛争は依然として終息せず、むしろ複雑なものに拡大しつつある。人類は、これらの地域紛争の拡大を迎え和平を達成するため、国連による平和維持活動(PKO)以外に当面の対症薬を持ち合わせていない。そのPKOも大きな壁にぶつかっており、国連組織の再検討が必要となってきた。

志方俊之 「しかた・としゆき」

……軍事アナリスト

軍事問題用語の解説



志方俊之

1936年静岡県生まれ。防衛大学校二期卒、京都大学大学院修了、工学博士。米国防軍戦略大学卒。現在、世界平和研究所客員研究員、軍事アナリスト。陸上自衛隊では在米日本大使館防衛駐在官、防衛大学校幹事、北部方面總監などを歴任。

ノドン1号(労働1号)

朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)が開発している弾道ミサイル。射程九〇〇〜一〇〇〇キロ、弾頭重量約七〇〇キロといわれている。北朝鮮には従前から核兵器開発疑惑がつきまとい、核兵器の運搬手段となる弾道ミサイルの開発状況については国際的な関心を呼んでいたところであったが、一九九三年五月、ノドン1号の試験射撃に成功したことから、九三年中には開発を終了し生産段階に移行できるものとみられている。ノドン1号は、その射程から日本にとって重大な現実の脅威となるものであり、その軍事的影響および対処等について種々論じられている。北朝鮮の弾道ミサイル開発の歴史を概観すれば、北朝鮮は八〇年代に入ってエジプトから旧ソ連製スカッドB(別項)を入手し、リバース・エンジニアリングによって八六〜八七年に国産化に成功、弾道ミサイル生産技術保有国の一員となった。引き続き八八〜八九年にかけてスカッドBの射程を延伸したスカッドC(別項)の開発を開始、九一年には移動発射台(TEL Transporter Erector Launcher)からの発射に成功、シリアやイランへの輸出が取り沙汰された。ノドン1号はスカッドCとほぼ同時期に開発が進められてき

た。液燃式の一段式ミサイルであることから、技術的にはスカッド・ミサイルの流れを汲むものと考えられ、また、射程約一〇〇〇キロといふことからスカッドB/Cよりかなりの大型化がなされていると考えられている。このように北朝鮮は、西側先進諸国を中心に核兵器の運搬手段となる弾道ミサイルの拡散防止をねらったMTCR(Missile Technology Control Regime)が八七年に制定されるなど、大量破壊兵器拡散防止のための規制強化気運が高まる中であって、スカッドBの国産化成功以降も営々とその長射程化努力を続けてきた。これに加えて、IAEA(国際原子力機関 International Atomic Energy Agency)による「特別査察」の交渉途上において、九三年三月、NPT(核不拡散条約 Nuclear non-Proliferation Treaty)脱退を宣言するなど核兵器開発疑惑をますます深化させる事態を起している。NPT脱退問題に関しては、同年六月、その一時停止を発表したが、疑惑そのものは何ら解消されたわけではない。朝鮮半島は極めて高い緊張状態の中に置かれているということには変わりはない。

国際情勢を動かす
軍事問題



クリントン政権は、SDIの開発を中止するなど、本格的な軍備削減に取り組んでいる。地域防衛戦略を確立するための努力と共に、技術的優位を確保するため新しい国防科学・技術戦略

を打ち出した。他方、エルツイン指導のロシアでも軍縮は進んでいるが、未だ新しい軍事ドクトリンを模索している段階にある。

◆SDI(戦略防衛構想)



田久保忠衛

1933年千葉県生まれ。早稲田大学第一法学部卒業。時事通信社外信部長、解説委員兼編集局次長を経て、現在、杏林大学社会科学部教授。著書は『新世界秩序と日本』など。

外交問題用語の解説

田久保忠衛 「たくぼ・たたく」……杏林大学教授



●UNTAC（国連カンボジア暫定統治機構）の活動を支援するため現地に行っていたボランティア活動家の中田厚仁さんと文民警察官の高田晴行さんが尊い犠牲となったが、とにかく日本も国連に少なからぬ役割を果たした。カンボジアだけでなく、モザンビークにも自衛隊に派遣されたが、PKO活動がどんどん増える傾向にある中で、日本がどれだけ協力できるか、できないか、大きな問題として浮上しそうだ。

●日本にとって最も重要な国であるアメリカとの関係は深刻の度合いを増しつつある。そもそもクリントン政権は国内経済の再建を最大の課題として出発したのであるから、当然ながら日本に対して日米包括協定の枠組みづくりという難問を持ち出してきた。7月の東京サミットで宮沢首相とクリントン米大統領との間でひとまず話し合いはまとまったが、アメリカの唱える数値目標をめくりこれからはもトラブルが起こりそうだ。

●対露支援問題は結局、日本がG7の場では若干の協力をし、日露2国間では政経不可分の原則を貫くというスッキリしない形になったが、エリツィン大統領の来日でなし崩しに支援を強めることにならないか。

◎ 細川連立政権の外交政策

細川内閣は、連立政権をつくるにあたって、「外交・防衛問題について、これまでの政策は継承する」との連立八党派の合意を得た。「これまでの外交」とは、日米関係を最重要な関係と位置づけ、日本をアジアの一員と定め、国連を重視するとの三本柱で構成されていた。防衛政策は日米安保条約プラス自衛力である。

この基本路線は変えない、というのが細川連立内閣の方針であろう。であれば、自民党政権と何も変わらないことになる。

強いて相違点を見つけようとするれば、細川首相は就任直後の一九九三（平成五）年八月一日の記者会見で、「先の戦争をどう認識しているか」との質問に対して、「私自身は侵略戦争であった、間違った戦争であったと認識している」と言明した点である。

このあとの施政方針演説で「侵略戦争」という表現は「侵略行為と植民地支配」という表現に改められたが、歴代の自民党の首相よりも明確な発言をしたことだけは事実である。このような考え方の延長線上に存在するものとして、九月二十七日の国連演説が挙げられる。

調子は落としてつつも、首相は「私は、この機会に過去の歴史への反省を忘れることなく、今後わが国がいつそう世界の平和と繁栄のために寄与するとの固い決意を改めて申し述べたいと考えます」と言明した。

もう一つは、八月の衆院本会議で、河野自民党総裁が、日本の今後とすべき道として、①軍事面での抑制路線をそのまま進め、国際的な貢献は憲法に沿って非軍事面で果たす、②

国連の武力行使にも積極的に参加することと引換えに、国連安保理事会の常任理事国になり、「普通の国」になる、の二つのうちいずれを選ぶのか、と質問したのに対する細川首相の答弁である。

首相は「国際情勢は今までも増して不透明で、流動的な状況である。二つの道のどちらかを選ぶような単純な問題ではない」と述べたうえで、「私としては指摘のようなミニ超大国を目指すつもりは毛頭ない」と答えたのである。

「ミニ超大国」が何を意味するかは不透明だが、河野総裁の立場は①であり、「普通の国」になるの指して「ミニ超大国」と言ったものと考えられる。

同総裁は「ミニ超大国は覇権主義につながりかねず、国際社会の緊張要因になるばかりか、究極的には、再び国民を不幸な状況に追い込むことになる恐れがあるのではないかと心配する」とも説明している。この解釈がいかにどうかは疑問が多すぎるが、細川首相が河野総裁のいう路線と同じ方向を目指しているのは明らかである。

湾岸戦争の際にも、カンボジアPKOに対する自衛隊派遣のときにも、日本の世論は軍事面も含めてできるだけ貢献をするのか、あるいは非軍事面に限定すべきかをめぐって二つに分かれた。ただ、いまの日本が直面している問題は国内の議論ではなく、世界一の超経済大国でありながら、貿易立国として非軍事面だけの貢献だけで、他の国が納得するかどうかである。

Introduction



●各国の深刻な経済停滞、経済摩擦などが顕在化している。経済収支の不均衡が保護主義への傾向をいっそう強めている。世界経済はアメリカ、EC、日本の三極を中心に大きく転回しようとしている。だが、戦後40年も続いた冷戦の後遺症とくにこの間に形成された経済構造は、簡単には転換できない。

●アメリカ経済が巨額の財政赤字を抱えるようになったのも、軍備に優先的に予算を投入したからであり、産業技術も軍事技術を頂点に形作られてきたからである。日本もまた、米ソ冷戦の間をぬって経済の拡大を図り、貿易拡大に邁進したという逆の意味で冷戦期の経済システムを脱しきれてはいない。

●だが、1993年に発表されたアジア開発銀行の予測では、アジア太平洋地域は、引き続き世界で最も高い経済成長率を維持するという。今後2年間にアジア地域全体の伸び率は平均して7%台となっているが、やや伸び率が鈍るものの、中国経済は2桁台の経済成長が続くものとされる。

●まさにアジア経済は、世界経済における発展の地域となっているのである。これは、冷戦期を脱した21世紀の世界経済システムの核ともなる新しい慣性が形成されることを暗示している。

増田祐司

「ますだ・ゆうじ」

……東京大学教授

経済外交用語の解説



増田祐司

1938年千葉県生まれ。早稲田大学で西洋史を学び、東京大学で経済学を学ぶ。現在、東京大学社会情報研究所教授（現代産業論）。著書は『技術先端産業』『技術革新の南海流』『知識化社会の構図』などハイテク開発の国際関係、国際技術戦略、高度情報社会における情報・技術の課題などについての著書、論文多数。

◎ 米国の通商経済政策

クリントン政権は、輸出市場の拡大を目指しており、これまでも増して日米欧の三極間での通商経済摩擦が厳しいものとなっている。米国経済の再建を最優先課題とするクリントン大統領は、外交面でも経済利益を全面に押し出すという方向をとっている。とくに、対日貿易では毎年巨額の赤字を計上しており、日米両国の収支バランス改善の努力にもかかわらず、一向にその成果は現れていない。日本経済はバブル崩壊の後、国内需要が停滞し、輸入も落ち込んでいたため、貿易収支は大幅な黒字になっている。

新政権は、まず日本に内需拡大策をとるよう求めてきており、またはつきり目に見える形で対日赤字を縮小するよう具体的な成果を求める「結果重視」の姿勢を一層明らかにしている。

またクリントン政権の対日経済政策は、日本に米国と対等な経済的責任をとるよう求めることにある。

かつて冷戦期には日本経済の規模が、米国経済に比べて小さい時代には経済・貿易摩擦が日米関係や安全保障政策にひびくことを懸念して米国は手加減をしてきたともいえる。しかし、いま日本経済の規模は、米国経済の六割を超えるにいたり、一人当たり所得では米国の上回るに至ったのである。もはや、米国にとって日本からの言いつけは聞きたくないのであり、いっさい通らないのである。

米国の求めている貿易黒字減らしとは、具体的には外国系半導体の日本市場におけるシェア二〇%達成であり、コメ市場の開放などで

ある。レーガン、ブッシュの両共和党政権の間で日本政府は、乗用車、鉄鋼の輸出自主規制、外国系半導体の国内シェア拡大、米国製自動車部品の購入拡大等を二国間で約束してきた。しかし、これによって日本の対米貿易収支が均衡する方向には動かなかつたし、今後日本の黒字が縮小するかにについても定かではない。

日米間の通商交渉は、米国側からの対日規制強化を求める産業界の声、他方では日本側では輸出自主規制など可能な限り産業界に求められるというプロセスの中で政府間で進められることになる。だが、それは問題の根本的な解決にはならない。

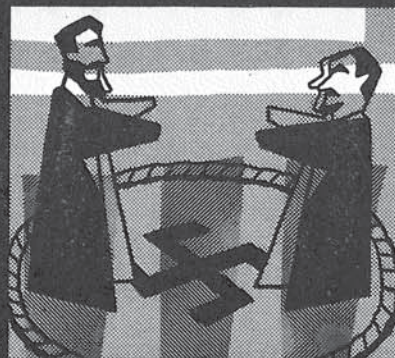
米国経済が再生するには、たしかに貿易収支の黒字を達成することも重要である。しかし、それは経済的再生の結果として達成されるものであろう。

なによりも、新政権に求められているのは、米国を支えてきた産業の再生であり、今後米国経済を先導するであろう産業の育成であり、これによって米国産業の国際優位を確立することである。

また、このプロセスで八〇年代レーガン政権の時代に肥大した軍事産業を民需産業に転換（軍民転換）することである。そして、なによりも米国再生を進める経済・財政政策を推進するための制約となっている財政赤字を縮減することが核心となる。

この厳しい路線を超えることによって米国は、二一世紀にかけて「再生」へと翔くことができる。

南天 のどをスッとさせる南天。山梨県身延町は南天の産地として有名だが、このほど好評の「南天のど糖」に続いて「南天ワイン」を開発した。南天は砂糖漬けにすると実が発酵し、のどの通りが良くなる効果がある。



中村 哲

1912年東京生まれ。東京大学法学部卒業。台北帝国大学教授、法政大学教授・総長を経て、一期比例代表制参議院議員を務める。著書は『柳田国男の思想』『わが学芸の先人たち』など多数。

政治理論用語の解説

中村 哲 「なかむら・あきら」

法政大学名誉教授



●日本国憲法が天皇を取り扱うのに、英文では旧憲法のエンペラー(Emperor)の用語を変えず、当時この事を議会の審議にかけなかった。私は比例代表の一人として初めて国会に出た時、外国記者に、「エンペラーは天皇の法的性格を正確に表現していないのではないか」と聞かれた。この点、政治学者として終戦時を反省した。

●しかし、ソ連の解体に及ぶ東西対立が、急速に変動し、日本の政治についても、明治維新に匹敵する政治改革が、止まるところを知らないと見通される現在、日本が大日本帝国を誇示していた時代の帝王にあたる英訳をそのまま使用して良いとは思われない。

●今やローマ帝国以来の帝国(Empire)群が解体して、民族国家どころか、ソ連、ユーゴ等にしても、ネーションを維持し得ず、多くのエスニックに細分化する方向をたどっている。国連政治は、エスニックの多極化に応じて展開されているわけだし、中近東、アジア、中国にも虚像の王冠を頭に戴いた国は消滅した。イギリスはゴッド・セイブ・アワー・キングといっているから、日本はキングに改めてはどうかということがあがるが、君が代さえも論議のある今日、キングにするわけにもいかない。

◎ 宗教と国家

日本では、やや保守的とみられていたフランスの評論家レーモン・アロンが学生反乱のあった当時のパリの眼でマルクスとトクヴィルを比べて、ソ連はデモクラシーを冠した専制主義であり、西欧は自由主義的なデモクラシーであると発言したことがある。政治が何を看板に掲げようと本質的に民主主義があるか否かを見抜くことが必要だというのである。議会側であろうと大統領側であろうと、専制主義の中の政治抗争とみられる今日のロシアは、国外からみると判断のつきかねるところがある。だが、砲火のきらめく映像の陰に、ロシア正教側の仲介があったという情報があり、権力志向ではない民衆的なキリスト教の姿をみて、私は一瞬、ほっとさせられた。

元来、ロシア正教はギリシャ正教の系統であって、その特徴は皇帝教皇主義(ケサロ・パプティズム)の学名でいわれるような政治宗教であり、巨大な城壁すらもつ修道院は、ときに、権力拠点ともなり得た。このためポーランド出身のローマ法王のような中立の立場をとるのは困難と観たのだが、私の思い過ぎだったのかも知れない。

またキリスト教全般を俯瞰してみても、私は、アメリカのカトリックとプロテスタントの政治的動きについて学生紛争以来注目してきた。というのも、世界的にいえば、今日の政治指導者は学生紛争の世代である。学生運動の分析者リブセットはアメリカの政治的対立が寛容性を欠くのは建国初期のプロテスタントのピューリタニズムに起因し、大量移民が比較的下層民で、トクヴィルが分析したよう

な貴族的伝統を欠くところにあるという。ちなみに、リブセットは同じキリスト教国のイギリスの寛容性について、チャーチルの言葉「イギリスの共産党でもイギリス人である以上は嫌悪しない」を引用している。それは、チャーチル独特なイギリス人らしい孤立主義的かつ貴族感覚といえる。それは、ヨーロッパの政治的感情としてECの性格にも係わることはないか。

一方、日本には、「お上」とか「大奥意識」が目に見えない形で潜在し、権威とされるものに弱いところがあるため、日本のカトリックもそうした権威志向のものが見られがちである。日本は封建制の下で鎖国時代が続き、キリスト教者の活動というのは、想像し難いところがあるが、実際は、戦国時代にザヴィエルの来朝で始まった天主教という名のカトリシズムは、信長時代のその普及にみられるように、大名たちばかりか、汎く民衆に拡張されたものである。その信者は今日なお東北地方の山村に隠れ切支丹の名で言い伝えられている。このカトリシズムを護り続けているのは比較的には社会的底辺の信者で、アメリカの中では少数派であるカトリシズムや、『解放の進学』を著したグティエレスにも、それに共通したものがある。

つまり、今回のロシア正教による仲介という情報にも、こうしたキリスト教の民衆的な部分があれば幸いである。私は、ロシアの農村で、壁に描かれたマリア像に入れ代わり立ち代わり頻りにする民衆を観たがゆえに、それを強く感じた。



広瀬郁雄

1954年茨城県生まれ。横浜国立大学大学院経営学研究科修了。現在、上武大学商学部助教授、公認会計士。著書は「簿記会計学習ハンドブック」「大学基本簿記」「会計制度の国際比較（共著）など。

財務会計用語の解説

広瀬郁雄「ひろせ・いくお」

上武大学助教授

Introduction

●わが国における財務会計の動向は、ここ数年、企業活動の多角化・国際化を背景に、会計基準の国際的調和（ハーモナイゼーション）の動きが活発に行われている。これは、国際資本市場での資金調達グローバル化に伴い、各国の会計基準を統一化または調和化する動きに対して、わが国の企業会計制度がその国際面から変革を迫られたものといえる。

●そのなかで各国の代表による国際会計基準委員会の国際会計基準（IAS）への国内基準の変革が現実性を帯びてきている。たとえば、平成7年3月期決算から実施が予定されているリース資産の貸借対照表への計上は、「情報開示主義」を基本理念として掲げるIASへの対応のひとつといえる。

●しかし、わが国の企業会計制度は、株主総会で承認された決算に基づいて税金計算を行う「確定決算主義」が主流となっており、IASが要求している「情報開示主義」からかけ離れたものとなっている。したがって、今後はIASを国内基準にどのような方向で導入すべきか検討されることになる。

●他方、IASが短期有価証券の時価情報を要求していることから、わが国では資産再評価論議が再燃している。

◎ 会計の国際化

一九九三（平成五年）一月一日付で日本公認会計士協会の白鳥栄一氏が国際会計基準委員会（IASB）の議長に就任し、また、九四年秋には、各国の会計基準を国際会計基準（IAS）に調整することを主要な議題として、わが国の大蔵省証券局やアメリカの証券取引委員会（SEC）などで構成される証券監督者国際機構（IOSCO）東京総会の開催が予定されるなど、わが国会計基準の国際調和化（ハーモナイゼーション）への動きが活発になっている。

IASは、企業活動のグローバル化に伴い、国際資本市場での資金調達を容易にするなどのために、投資者の意思決定に役立つ会計情報を提供するという視点から、七三（昭和四八）年に先進諸国の職業会計士団体によって設立されたIASBによって、各国の会計基準や会計原則の国際的な統一化または調和化を目的として設定される基準である。IASの特徴は、財務諸表の国際比較を可能にするために各国の会計方法を少なくする一方で、短期金融資産の時価評価やリース取引の資本化などに代表されるように、企業の経済的実態を適切に開示するという「情報開示主義」を基本理念としているところにある。他方、わが国の企業会計実務は、すべての株式会社等に義務づけられている商法主導型の決算に税務対策を優先させた「確定決算主義」による会計慣行が戦後一貫して採用されている。すなわち、「確定決算主義」は、株主総会等で承認された確定した決算をもとに税額計算しようとする税法上の要請によるものである。

したがって、「確定決算主義」にもとづくわが国の企業決算では、固定資産の減価償却計算や不良債権の償却計算などは、すべて税金計算に関連してくるために、それらが企業の実態開示を示すうえで必要かどうかという判断よりも、非課税の範囲内かどうかといった税務上の判断が優先する傾向にある。

このように、わが国の主流となっている「確定決算主義」による決算は、会計の国際化をめざそうとするわが国の会計制度の足かせとなっている。そこで、大蔵大臣の諮問機関である企業会計審議会は、株式公開企業すなわち証券取引法適用会社の会計基準を欧米と同じように企業決算と税務計算を分離する方式を導入し、企業の経営実態を反映した決算をしやすいとともに、先進諸国が導入を検討しているIASへの対応を図ろうとしている（九三年一月三日付「日本経済新聞」）。しかしながら、わが国の企業決算には、こうした税務計算の要請とは別の問題がある。すなわち、わが国で従来より普及してきた間接金融型の資金調達方式を背景にした債権者の保護を中心とした商法主導型の決算である。商法決算は、研究開発費等の繰延資産を一時償却する処理を容認するなど随所に保守主義的会計処理を内包しているため、それが税務計算と結びついてきたのである。

このように、企業決算と税務計算を分離しただけでは解決しない問題がわが国の会計制度には内在しているのである。こうしたわが国の会計制度の特殊性を考慮しなければ、真の会計の国際化は実現しないのかもしれない。

立場をわきまえて発言しろ 口からアワを飛ばして過激な発言。上司からとがめられて、ふと我にかえる。会議で感情的になっても一文の得にならないことはわかっている。どうにも止まらない瞬間ってあるんだよ



山本直三

1929年東京都生まれ。早稲田大学政治経済学部経済学科卒業。東芝OA機器事業部、東芝OAコンサルタント取締役を経て、現在、愛知学泉大学教授。著書は『実戦オフィスオートメーション』（青葉出版）『日本語ワードプロセッサの活用法』『ワープロ文書生活』『ワープロ市民講座』（ビジネスオーム）など。そのほか日本事務機械工業会において、6年間にわたりワープロ部会長を務め、OA委員会および標準化委員会にて活動し、現在もOA利便性調査研究委員会にて活動中。

OA革命用語の解説

山本直三「やまもと・なおみ」

愛知学泉大学教授

Introduction

●OAと言えば、ワープロ、パソコン、ファクシミリなどを使うことを安直に連想し、これらの道具を習得しさえすれば、それでOAを理解したと思うのは早計すぎる。OAを理解しそれを実践するには、まずOAの本質を理解する必要がある。

●OAは、Office Automationの略で、直訳するとオフィスの自動化となるが、物的製造の自動化とは本質的に異なる性質を持つ。オフィスでは、事務や経営活動が効率的かつ効果的であるべく、人間が共同して、創造的かつ快適に働ける環境とその仕組みを築くことが肝要である。つまりここでは人間が主役という本質がある。

●この本質を基本として、高度情報環境の活用を重視して、新しいオフィスの仕組みを作り出そうとするのがOAである。

●コンピュータやワークステーション、通信ネットワーク、OA機器の活用、データベースなどの情報環境など、インフォメーションテクノロジーによって、どのようにオフィスを変革するか、どのようなニュービジネスを生み出せるか、オフィスで働く人はどうあるべきか、どんな問題が生ずるかなどもOAの課題となる。

OAの課題と目標

OAは、様々なとりえ方をされ、様々な意味を持つている。

学校を卒業して就職しようとする人にとって、「OAをする」ということは、パソコンやワープロを使うこと、つまりOA機器を操作することを意味している。それは就職のためもあるし、家庭でOA機器を利用し楽しむためでもある。それほどOA機器は日常化している。経営体にとってOAとは、OA環境・OA機器を利用して、企業の組織・運営形態・作業形態を革新し、より効果的かつ効率的な経営活動ないしオフィス活動を展開することを意味している。

OA環境は、コンピュータ、通信ネットワーク環境、OA機器およびこれらの要素を土台

94年の最新語

◆ウィンドウズ3.1

(WINDOWS 3.1)

マイクロソフト社が開発したMS-DOSによる三二ビットCPUを前提としたマルチウィンドウ型のOSである。複数の業務を同時に動かし、それぞれ独立した表示画面を用意し、実行状況などを表示でき、それぞれのプログラム間でデータや情報を交換しあうことができる。また、マルチメディア対応の機能を持っているほか、操作はアイコン方式で、きわめて簡単になっ

ている。これからのパソコンOSでは主流となると見なされ、コンピュータ各社は続々と採用を始めた。

◆CADオペレーター

景気低迷で人員削減のおり、特殊OA技能が重視されるようになり、その一つとしてCADオペレーターが注目されている。コンピュータ支援によるインテリアデザイン、型紙設計、図形の描画などの作業であるが、CAD技能のほか、グラフィックデザインの感覚が必要とされる。

◆CD-ROM書籍

読みだし専用のコンパクトディスク

として発展する高度技術、さらに様々な応用システム、職場環境およびサービスからなる。これらの環境を高度情報環境と総称することができる。

このような環境は、マイコン技術の進展によって急速に進展し、これがオフィスから家庭生活にまで広く影響を及ぼしつつある。「OAをする」ということは、高度情報環境に適応し、OA環境を効果的に利用できるようにすることにもつながる行為である。

現代の国際環境において、わが国社会は、国際環境への対応、バブルの崩壊や円高の進展への対応など、経営およびオフィスは、創造と変革を強く迫られており、OAは、その変革の主要な手段である。

イスクを使ったマニュアルないし書籍で、パソコンを用いて読む。文字はもちろん、画像はカラーで動画も可能、音も聞けるといふマルチメディアの電子書籍で、アトラクティブである。マニュアル、英会話、童話、辞書などが発売されている。

CD-R(書き込みもできる)の開発が進んでいるが、これではさらに書き込みなど、双方向的な書籍も期待できる。

◆ワイヤレスカード

(wireless card)

ICカードの一種で、無線通信機能を組み込んだもの。郵

食品添加物の毒性試験 毒性は大きく一般毒性と特殊毒性に分けられる。前者は頭痛、吐き気、皮膚炎、臓器障害、神経障害などの生理的な毒性で急性、亜急性、慢性がある。後者は発がん性、変異原性(突然変異を誘発)



久世 了
1935年東京都生まれ。東京大学経済学部卒業。現在、明治学院大学経済学部教授。著書は『現代日本の経済社会』など。

消費問題 用語の解説

久世 了「くせ・さつる」……………明治学院大学教授

Introduction

●1990年代に入って、バブル景気が崩壊したあとの日本経済は予想以上に景気回復が遅れているが、そのことは消費者問題の領域にも深刻な影響を及ぼしている。

●そのひとつは悪質商法が再燃したことだ。前回の不況からバブル景気の時期にかけて悪質商法が横行したのに対し、訪問販売法改正などの規制強化が一応の効果を示していたのが、今回の不況が長引くにつれて経営が困難になった業者が、なりふりかまわずアノ手コノ手で客寄せ、在庫さばきに走り出したため、92年度の悪質商法被害は前年度を大きく上回り600万件程度に達したと推定される。これと密接に関係しているのが消費者信用の「借り過ぎ」による自己破産の急増で、とくに若年層が安易にカードを使って返済不能に陥るケースが目立っている。

●92年10月、国民生活審議会消費者政策部会が製造物責任法の導入に関する結論の先送りを決定した。消費者政策の決め手といわれる同法の導入について、不況という経済情勢もあって産業界が強く反対したことがその主な理由で政局の不安定化もあり、この面で日本は欧米諸国などに対してさらに大きく遅れを取るようになってしまった。

悪質商法再燃

一般的な広告、宣伝、表示などの域を越える特殊な状況を意図的に作り出し、その中で消費者にモノ、サービスを購入するように誘導あるいは強制する、という販売方法を悪質商法、あるいは悪徳商法、問題商法などと呼ぶ。戸別訪問してしつこく勧誘する「押し売り」は悪質商法のいわば古典的な姿で、現代ではその手口も多様化し、消費者問題の中でも大きな部分を占めている。

国民生活センターでは、全国の消費者からの苦情相談の内容から、現在とくに二二の手の悪質商法を重要視し、それらがどのような消費者心理を利用したものかによって表のような分類を行っているが、それを見れば消費者がつかねに大きな危険にさらされていることが明らかである。(次頁の表参照)

ところで、こうした悪質商法による被害の大小は、経済情勢と深いかわりがあるようだ。不況の時期には、当然消費者の態度は慎重になるはずだが、しかし倒産が続出するような状況になれば業者側が苦しまぎれに悪質商法に頼ることになり、とくに未経験な若年層や人恋しい孤独な老人が狙われやすい。事実、国民生活センターがつかんだ悪質商法

にかかわる苦情相談のデータからすると、バブル崩壊後の不況が長引いて三年目の一九九二(平成四)年度には、被害件数は前年度をさらに一割以上も上回り、これをもとに実際の被害件数を推定すると六〇〇万件にものぼると見られる。

そして、一件当たりの被害金額は、カードや割賦契約などの消費者信用が容易に利用できるようなこととも関連して、若年層が対象になりやすい「アポイントセールス(別表)」で平均七十七万円、高齢者が被害を受けやすい「開運商法(別表)」でも平均六十九万円と、概して数十万円の高額に及ぶことからすると、被害総額は数兆円にも達するという推計が可能である。

これまでも、悪質商法への取り締まりはとかく後手に回りがちであり、それだけに消費者自身の自覚がなければ被害を食い止めることは難しい。新学習指導要領にもとづいて、小、中、高校での消費者教育の実施も現実化しつつあるが、成人、とくに高齢者への啓発活動も含め、「かしい消費者」づくりへの取り組みを一層強化することがますます必要となってきている。

94年の最新語

◆会員権取引規制

レジャー時代の掛け声に乗って、ゴルフ場やリゾートクラブ等が急増しているが、それら施設を優先的に利用できる会員としての権利の取引に関

して、悪徳業者による詐欺まがいの不正が数多く見られるようになった。

こうした事態に対して一九九二(平成四)年五月「ゴルフ場等に係る会員権契約の適正化に関する法律」が制定され、政令指定の取引について主務

大臣への届出義務などの規制が行われることになった。そして、九三年五月、対象をゴルフ場会員権で五〇万円以上のもので指定する政令とともに同法が施行される運びとなった。

◆有機農産物規格



泉 麻人

1956年東京都出身。慶応義塾大学卒業。
「週刊TVガイド」編集部を経て、84年フリーに。現在、コラムニストとして雑誌・週刊誌の連載を多数担当し、テレビでもコメンテーターとして活躍中。著書は「ナウのしくみ」「無共闘時代」「東京23区物語」「街のオキテ」「ヴァンサンカン」など多数。

社会風俗用語の解説

泉 麻人 「いぢみ+あむら」……………エッセイスト



●本来、この〈社会風俗用語〉のページは、巷に流通した流行語の類を、もっと堂々と掲げるものだったのだろうが、実際に使われる新語、流行語の数というのは本当に少なくなっている。

●たとえば93年度の記事資料のなかに「オサボリ族」（不況で仕事がないので、営業マンたちが昼間サボって公園のベンチで昼寝したり、カラオケボックスで遊んでいる…）なんていうのがあったが、その内容はともかくとして、こんな言葉、誰も使っていない。ナニソレ？ って感じた。

●この種のムリヤリ造語というのは、相変わらず生産され続けているが、ひと昔前に比べて、それが巷の一般市民に伝播し、普及する力は弱まっている。マーケットリサーチ会社などが、勝手にそういう造語を作って、一人あそびしているような傾向が強まっている。

●宮沢内閣が解散した際に、ニュース番組は「ウソツキ解散」などと名づけたが、それももはや、今の時点では、ほとんどの人が忘れている。また、マスコミからのウケウリの新語を、安易に口にしたりすることが恥ずかしくなっているのである。

●というわけで、ここにピックアップした項目は、必ずしも用語ではない。



◆オーレオレ…

四月に開幕したサッカーのJリーグは、当初マスコミが予測した以上の大ブームに膨れあがった。

Jリーグ開幕直前に行われていたワールドカップ・アジア地区第一次予選における日本の健闘ぶりと、想像していた以上に浸透していた若年層のサッカー熱が、Jリーグ開幕と同時に一気に爆発した！といった格好だろう。

それでも当初は、日本代表チームの主軸をつとめるカズ（三浦和也）をはじめとして、ラモス、北澤といった主にヴェルディ川崎のスター選手と、ジーコ、リネカーらのワールドカップで名を馳せた有名外国人選手に人気は集中していた。

が、開幕後、ヴェルディ、マリノスといった強豪チームを押しつけて破竹の勢いで勝ち進む鹿島アントラーズの、ケガで休養するジーコに変わって表舞台に現れた伏兵・アルシンド・サルトリーにファンは注がれる。脳天部だけ四月状に禿げたその特徴的な「カッパ頭」も、視覚的なウリモノとなり、彼はサッカーファン以外のミーハーまでを

も巻きこんだ今年最大の「ヒット・キャラクター」となる。三五〇〇万円の契約金で入団した選手が、三五〇〇万円の契約金でカッパメーカー・アデルランスのCMに出演するまでになった。

一方、オーレオレオレ…のJリーグ・テーマ曲「We are the champion」は、東京オリンピック時の「東京五輪音頭」を彷彿とさせる国民的ヒットソングとなり、各小学校の運動会の行進曲、あるいは課題演舞曲として、青空の下に流れた。

オーレオレ…と、チャホーンの音を耳にすれば、いまやほとんどの者が瞬時にJリーグの絵を思い浮かべる。手に入らぬJリーグ戦チケット欲しさに、チケット恐喝や偽造チケット等の犯罪も発生した。

◆ヘア写真集

九一年の樋口可奈子、宮沢りえ以来の、女優のヌード写真集出版は、今年に入って、松尾嘉代、大竹しのぶ、石田えり、山本リンダ、杉本彩、墨田ユキ…と、主に「熟女」を中心に大きなブームとなった。

すべてとは言えぬが、その大方のものウリモノは、「ヘアが覗いている」という点であり、もはや覗いているとい

う段階ではなく、堂々とクッキリモワモワと写し出されているものも少なくない。いわゆるアンダーヘアの問題は「芸術（アート）性」の名のもとに、なしくずしにされたような感じである。

また、ヘアに加えて、SM・ボンデージの世界をテーマにした演出もことし的な写真集のハヤリで、性に関する（変態）と（正常）の領域はいよいよ曖昧になってきた、という感がある（こういった傾向は、TVドラマの世界でも顕著になり、SM等の小技は九時台のドラマでも、ほんの嗜み程度に用いられるようになった）。

有名写真家・加納典明が責任編集をする「TENMEI」等の過激なヌード写真雑誌も次々と発売されたが、なかにはかつて日陰で売られていたB級ビニ本と何ら変わらない内容のものも多い。以前は日陰の三流モデルがやっていたことを、もっと上のランクの女優さんたちも堂々とやるようになった。よって市場が日なたに出てメジャーなものとなった。結局、これも都市開発と似たようなものだろう。

◆ブルセラ

ブルセラ・ショップというのも、前のヘア写真集のブーム

は、夫を看取った後のことを、イメージしているのであるまいか、とのこと。女性の老後は「夫不在」の方が盛り上がり、「かさばる男」は三界に家ナシが当世の常識とか。

（「元気が出る本」 話題学）

と同流のものであらう。

一〇余年も前から、いわゆる三流エロ雑誌の片隅には、「女子高生三人組です…恥ずかしいんですが、私たちの履き古したパンツ、ブルマー、制服を殿方にこっそり売りま…」等の通販広告が掲載されていた。

ブルセラというのは、それが明るい日なたに出てきたもので、そういう響きのいい横文字ネームというのは、国鉄がJRに、日本たばこがJTに変わるような、一種、企業CIの雰囲気さえ感じられる。しかし、ブルセラショップが発の際の適用法が「古物営業法違反」というのは驚かされた。履き古しだから、古物ということである。つまり、利休の流れをくむ茶器やら、ルイ何世やらが使用していた調度品…といった骨董品と同じ扱いなのである。

ブルセラこういう耳ざわりのよい呼び名が流通することによって、従来の毒やニオイは抜かれ、すべてデイズニールランドみたいなカワイイもんへと化けていくのである。

◆ジュリアナ・ギャル
デイスコ「ジュリアナTOKYO」は、既に前年より話題にはなっていたが、この春頃から店内の「お立ち台」で踊

現代用語の基礎知識……1994

るボディコン、Tバック、さらにはエスカレートしてボンテージ、あるいはストリップ・ティーズまがいの衣装を着たギャルたちが、一人歩きした形で社会現象となった。小道具の羽根扇子は、Jリーグ観戦におけるチアホーンに匹敵する定番グッズとなり、大中、東急ハンズ、ロフト、キ

デーランドといった若者向けの小物屋の店頭を飾るようになる。また、ジュリアナのデイスコは地方都市に波及し、本家ジュリアナを上回る過激さで、若者メディアよりもむしろ「おやし週刊誌」の嗜好のネタとなった。

（僕は仕事で地方の小都市を訪ねることがあるが、そういう町の観光課や商店会の人たちと話していると、真剣な顔で「ジュリアナみたいなものを作って、若いもんを呼び戻したい」と語る人が多い。一種の「村おこし」のようなものとして、ジュリアナをとらえているようだ）

ジュリアナのデイスコが、それまでのデイスコと大きく異なる点を一つ挙げるとすれば「お立ち台の上で踊るギャル」と、「下からそれを眺める男性客」という構造が明確にできあがった、ということだろう。これは、欧米あたり

のデイスコでは考えられない特殊な構造である。つまり、ジュリアナのデイスコは、六〇年代以降栄えた屋上ビアホール（テーブルの脇で肌を露出したゴーゴードンサーが踊る）や、ストリップショー等に極めて近い内容のものである、といった見方もできる。ジュリアナ・ギャルは、お客でありながらも、彼女たちの意識のなかには「台の上で踊るスター」というプロ意識が存在している。

ジュリアナのデイスコが地方に分散するのと同様に、踊るギャルたちの年齢層も若年化する傾向を見せている。中学、高校生のジュリアナ・ギャル予備軍のことを指して「コギャル」という俗語も生まれた。実際、店側では法規上、未成年者の入店を厳しく制限していることもあって、

まだ店に入れない彼女たちはAVEX（エイベックス）レーベルが出している「ジュリアナMIX」CDを買い、家のなかで踊っている…といった珍現象も発生した。

◆コンサバ
コンサバタイプ（conservative）の略語で、本来の意味合いは政治、思想的に「保守的な」というようなことを表すものであったが、それがフ

ァッション用語として四、五年前から業界筋で使われはじめ、若者雑誌、情報誌のメディアで頻繁に使用されるようになった。

簡単に言ってしまうと、トラッドやアイビーに置き換わる言葉である。ただコンサバの場合、ファッション・スタイルの枠を越えて、ライフスタイルや人生観をも含めて解釈されているようなところがあ

る。たとえば、ひと頃流行った「お坊っちゃん」「お嬢さま」みたいな要素も、コンサバという言葉のなかには収容されている。

そういうイメージに頼った言葉なので、髪型はこうで、シヤツはどこそで…といった厳密なブランド・マニュアルは存在しない。強いて挙げれば「ラルフ・ローレン」のものが、コンサバ的なファッション・アイテムとして、各誌で取り上げられているが、それは別にこの一〇年来のトラッド・ファッションの傾向として、さして新鮮なものではない。

ブナンな定番、というやつだ。ただ「コンサバ」「コンサバ的なライフスタイル」が今年あたり一気に盛り上げられている状況の背景には、キラキラとしたケーハクなバブ

ル時代を象徴するイタリアン・ファッション（主にダブルのソフトスーツなど）に対する反語、という性格があるように思われる。

つまり、バブルもはじけたことだし、ちょっと静かに、クオリティーのある生活してみようぜ、上っ面なトレンドを追いかけるのはやめて、休みの日には郊外に出てピクニックでもしましょう、質のいいチルデンセーターでも着て…というような物語が背景に描かれているのである。

しかしこれも、一〇年前のブレッピーとかBCBG（ベーパーページ）と何ら変わら

ない。

◆味がある
先に解説した「コンサバ」で問われるのも、「味があるか、ないか」といったことであろう。どことなく育ちの良さそうな味が出ている…とか、これと言って美男子ではないけど、彼、なんとなく味があるじゃない。

容姿、仕種、言動…といったものに、「味」が問われるようになってきている。アナログからデジタルへ、すべてのものが数値化されつつある状況のなかで、「フアジー」というコンセプトが持ちあげられたように、この「味」という判

断基準も、そういうた隙間もなくなくなっていく息苦しさから、反動として出てきたようなものではないだろうか。なんとなく味のある人、いい味出してる人と言えば、今年あたりでは、たとえば永瀬正敏。本木雅弘のように造作がくつきりと美しいわけでもなく、福山雅治のように端正な二枚目でもないのだが、どことなく、とっばいチンピラのような味が滲み出ている。〈フェロモンが出ている〉という言い方もある。

フジテレビの報道番組で時折顔を出す、モスクワ支局の松浦さんという人も、和製ホーキンスのような、実はロポットだったりするような、なんとも妙な味がある。

◆エビアンホルダー
ミネラルウォーター「エビアン」の小瓶を首からぶら下げて歩く少年（主にグランジ・ファッションの）を、この初夏あたり渋谷でよく見掛けたものだ。

一部マスコミでは彼らのことを称して「オアシス族」と呼んでいたが、この呼び名は一般的にはあまり浸透しなかった。

原宿のキデーランドやアメ横には、エビアンの小瓶に皮革製のホルダーを装着した

誰もが、身近な男よりも絶対生き延びるぞ、と確信しているところが、女たちの元気の素であるようだ。〈久田恵『男がいてもいなくても』講談社〉 この本のタイトルからしても元気だ。主婦たちが「老後」と言っているの

風俗・流行

若者風俗用語の解説



高橋章子
1952年東京都生まれ。武蔵野美術大学卒業。「ピククリハウス」編集長を経て、現在、エッセイスト／編集者／パーティーゲームの企画・プロデューサーなどで活躍。著書は『ほ〜んやり幸せ（じゃこめてい出版）』編集者ってタフで知的な雑用係。（OBSソニー出版）高橋章子大全アッコです、トモ。（筑摩書房）『とっかおかし』（講談社）『犬も歩けばタカハシにあたる』（芸文社）など。

高橋章子 「たかはし・あきこ」……………エッセイスト

Introduction

- 今もっともカッコいいもの、それは間違いなくスポーツだろう。相撲、プロレスなど肉体派への志向は以前からも顕著になっていたが、ここにきてそれがファッションと緊密に結び付いた感じだ。とくにスポーツの中でもサッカーとバスケットに関連したグッズは人気の的となっている。ブームはすぐに沈静化するなどと陰口をたたかれても、いまだに衰える気配すらない。
- 1970年代文化への回帰がますます本格化、街にはヒッピー風のファッションがよく見られるようになった。もちろん、精神文化を重視する傾向も強くなり、宗教やオカルトへの傾倒もいっそう進んだ感がある。また、これと同時に原始的な快楽を求めてか、ディスコ、そしてクラブなどが再びブームになっている。
- 各地に飛火したジュリアナ東京のブームは、全国にボディコンを定着させる結果に。これに対し、さらに若い世代は自らを区別させる意味でギャルならぬコギャルに変身、学校内では大人しい学生、放課後は自由人とふたつの顔を使い分ける場合も出てきた。テレビドラマでも日常に隠れた狂気を扱ったものが増え、視聴者の興味を集めた（カタルシスを与えた？）のだった。

風俗・流行

早熟と未熟の二極化

情報のあふれる中、既存のモラルに従って生きるのには、あまりにも無理がある。というわけで、女性は自分の商品価値を年齢ではかりながら、男性は避難場所としてオタクキーな道を追求しながら、それぞれのライフスタイルを見いだそうとしているかのようだ。しかし、一生のうちで短い思春期を享楽的に生きたいという発想は、未来の欠如を意味しているのかも。

◆**コギャル**
お色気を前面に出すボディコン・ギャルに対して、少女性を残しながら健康的にクラブ遊びなどを楽しむティーン・エイジャーの女の子を指す。日焼けした肌は原色、蛍光色のフレア・ミニのワンピース、クシユクシユのソックスにサングラス、またはブーツといったコーディネートが定番で、アクセサリとして腕にデイズニーの時計、プロミスリング、蛍光ゴムなどをしてい

ことが多い。さらに、彼女たちにとって必需品となっているのがポケベルだ。数字を組み合わせた会話法により、「88951」（ハヤクコイ）、「4919」（シキウイク）といった待ち合わせに関するものから、「14106」（アイシテル）、「33414」（サミシイヨ）など、恋人との熱いメッセージまでが交換されている。

◆山田かまち

一九六〇（昭和三五）年群馬県高崎市に生まれる。中学時代からロックに傾倒、クラスメートの氷室京介（現在、絶大な人気を誇るミュージシャン）とバンドを結成するが、一七歳の夏、エレキギターの練習中に感電死。死後、八〇〇点あまりの自作の絵や詩がベッドの下から発見された。

この、夭折した青年の遺作に表現された思春期の悩みや喜びが、単行本や展覧会を通して紹介されるや、彼の同世代ばかりか今現在の中高校生にも共感を与えることに。これによって、思わぬ山田かまちブームが到来したのだった。これは、死後一年を経たロック歌手、尾崎豊の追悼式にファン三〇〇〇人が詰めかけ、彼に関する本が次々と出版、好セーブルスを記録するといっ

た状況とも、どこか相通じるものがあるようだ。

◆ウゴウゴ・ルーガ

フジテレビ系列で放映されている幼児向け教育番組。CG（コンピュータ・グラフィックス）を多用した画面に人氣があり、おやじギャグやレトロな話題を持ち出すなど、そのマニアックな内容も影響して幅広い年齢層から支持された。ウゴウゴくん（田嶋秀任）とルーガちゃん（小出由華）という二人の小学生が、テレビくん、シュールくん、トマトちゃんといったCGキャラクターと掛け合うコーナーは、意外性に満ちた発言が飛び出し、とくに人気を呼んでいる。なお、九三（平成五年）一〇月からはゴールデン枠にも「ウゴウゴ・ルーガ2号」という番組名で進出を果たしている。

◆クレインゲーム

ゲーセン（ゲームセンター）ではわき役的な存在だったクレインゲーム（別名・UFOキヤッチャー）がブームに。その秘密は何と言っても景品として獲得できるヌイグルミにあるようだ。以前からもヌイグルミは入れられていたが、デザイン的には粗悪な商品も多かった。ところが『オバケのQ太郎』『ムーミン』『ゲゲゲの鬼太郎』など、アニメの